

運動会練習も佳境に入りました。今年はなんだか表現活動が盛んにおこなわれているような気が...

現状を超える

朝から竹ぼうきでさっささと落ち葉を掃く音が着こみます。6年生がリーダーになってのボランティア縦割り活動が始まっているようです。中には、担当日ではないにもかかわらず活動に参加している6年生もいるようです。その6年生の声に聞き耳を。

「なんか、自分たちでできることを探していて・・・」

「1年生のお世話は役割分担があって今日はないし、暇だし」

う～ん。暇だからボランティア。とっても心がホカホカする時間です。頼もしさも醸し出しながら、もっと遠くの「なりたい自分」を見つけた（ている？）のかもしれませんね。

そんな6年生の学年目標は、「協同 優しさ 積極性 ～なりたい自分へLevel Max～」。現状を打破し、Level Max になったときに出会えるなりたい自分へ向けて、新しい自分を開拓していくスピリットが伝わってきます。

とはいえ、現状を超えることは並大抵のことではできません。人は、原理的に現状を維持しようとする生き物なのですから。

どういうことか。

バイアス、という言葉を作り出したダニエル・カーネマン氏という人がいます。そのカーネマン氏による、とても興味深い実験があります。以下に示しますので、ぜひお試しを。

コインの裏表を当てるゲームです。表が出たら1,500円もらえるけれど、裏が出たら1,000円払わなければいけません。

どうです、やりますか？

数学的には、絶対に「やる」が答え。期待値がプラスなので、やらない手はない。

しかし、多くの方は「やりませんよ。そんな損するかもしれないゲームなんて」と思われたのではないのでしょうか。実際、当時の実験でも多くの参加者は「やらない」という答えだったそうです。多くを得ると頭でわかっている、人はなくすことに恐怖を感じる。絶対にいいと分かっているにもかかわらず、現状を変えることには前向きになれず、ちょっとくらいきつてもうまくいかななくても、今の現実に合っていないなくても、このくらいなら我慢できると現状を維持してしまおう。

このように、「人は、現状を維持しようとする」という心理が働いてしまう原因を、カーネマン氏は「現状維持バイアス」と名付けました。

う～ん、悔しいけれど、なるほど納得。

それほど現状を打破することは、難しいということなのですね。現状維持バイアス、恐るべし。しかし、6年生の目標は、その“人”が陥りそうな現状をLevel Maxで超えていこうと、強く心を鼓舞しています。そのための、協同・優しさ・積極性と、具体的な取り組みも設定しています。本校の6年生にとっては、現状バイアスなぞ恐るるに足りず、というところか。もっと向こうへ、楡木を引っ張ってくれそうな素敵な6年生です。

